

別記様式第1号（第4条関係）

木津川市立小学校及び中学校の在り方検討委員会 開催結果の要旨

会 議 名	第7回 木津川市立小学校及び中学校の在り方検討委員会		
日 時	令和4年10月14日（金） 午後2時～3時45分	場 所	木津川市役所5階 「全員協議会室」
出 席 者	委 員	■榊原 禎宏（委員長） ■湯藤 定宗（副委員長） ■中川 嗣郎 ■島本 秀美 ■山下 智義 ■吉村 咲子 ■坂口 智夏 □和田 妙子 □松下 恭弘 ■行衛 満 ■坂寄 正男 ■福本 桂子 ■高井 啓介 ■渡部 基信 ※□：欠席者	
	その他出席者		
	事 務 局	竹本部長、大村理事、吉村理事、平井課長、西村主幹、 小川主幹兼総括指導主事、藤田課長補佐、齋藤担当係長、 寺内主事 オブザーバー：学校教育指導主事	
議 題	1. 開会 2. 事務局挨拶 3. 議事 (1) 協議事項 ・ 基本計画（案）について（資料1） ・ 今後のスケジュールについて 4. その他 5. 閉会		
審議結果要旨	1. 開会 事務局より、開会を宣言した。 2. 事務局挨拶 竹本部長より、開会にあたり挨拶があった。 3. 議事 (1) 協議事項 ・ 基本計画（案）について（資料1） [前半]基本計画（案）について 基本計画（案）をパブリックコメントに向けた内容として決定した。 第6回検討委員会での意見を踏まえ、前回案からの主な修正箇所について説明した。		

I 木津川市の学校の現状と課題・II 将来世代の児童生徒にとって、ふさわしい規模・配置・学校体系と施設の整備方針

全体として年と年度の使い分けについて、計画等や児童生徒数に関わるものについては年度で統一した事、次に第I章では、6ページ「個別最適な学び」「協働的な学び」が教育用語であるため注釈を加えた事、7ページの全国学力・学習状況調査結果を最新の令和4年度のデータに更新した事を説明した。

第II章では、12ページの生活面のメリット・デメリットでのいじめに関する意見に対し、いじめを含め課題はあるため13ページの下から9行目に「安心・安全な学校生活への対応」を追記した事、14ページの適正配置の記述では、中学校の再編について、現在の5中学校を基本とすることに「当面」を、通学について将来的に小中学校の再配置があった場合には通学方法について検討することを追記した事、更に15ページ「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の用語に注釈を入れた事、19ページでは施設一体型の一択ではないとの意見を踏まえ、いくつかの方法を検討していることから表現の修正、20ページ学校選択制の記述に関し「指定された学校への就学にとらわれず、幅広く校区・通学区を市全体の中でとらえては」という意見を受け、下から2つ目の段落のように追記した事を説明した。

III 学校再編の方向性・IV 今後の取組の進め方 V 留意点・VI 計画の見直し

第III章22ページでは「小規模校をどうするのか」というときに、数合わせの議論ではなく、どういう地域づくりをしていくのかという点についても組み込んでどうか」という意見を受け、再編の方向性における前段に「義務教育9年間を通じて、多様化する課題等に対応する児童生徒の姿を見据え、それぞれにおける可能性を例として示しています。」を追記、併せて各傾向による可能性を示した、あくまでも例であることとした表現に修正した事、更に児童生徒数の増減傾向ごとの検討の方向性に関する部分で「オンライン学習等を活用して」という点に関し、ICT活用は学校規模に関係なく実施するものという意見を受け、実際、各校のカリキュラム編成の工夫でICT活用による取組ができることから一部文言を削除したことについて説明した。

次にIV章38ページでは「市の財政状況を考慮しながら」という記載について、木津川市学校施設等長寿命化計画においてもコスト見通しを示している点を踏まえ修正した事、更に協議の流れを示したイメージにおいて、今後の学校について、しっかりと検討しながら地域での理解を高めることが必要

	<p>であるため、「方向性の検討」を追記したことを説明した。</p> <p>最後に39ページでは「教育の質の更なる充実に向け、児童生徒の学習等活動の活性化や豊かな人間関係を構築できるよう十分配慮します。」と児童生徒視点の表現に修正したことを説明した。</p> <p>[後半]ブレインストーミング</p> <p>今後のアイデアや自分自身にできることへの気づきを得るため、4つのテーマ ①小中学校区のいい点について ②それぞれの校区の改善点について ③10年後の姿・願望について ④願いを実現するために自分自身ができることについて の視点からブレインストーミングを行い、今後の委員会でも当事者性の意識が重要であることを再確認した。</p> <p>・今後のスケジュールについて</p> <p>パブリックコメントの実施時期は、12月広報紙でお知らせし、12月上旬～1月上旬で予定をしていることを説明した。</p> <p>3. その他</p> <p>次回の委員会は、2月9日（木）に開催することとした。</p> <p>4. 閉会</p>
<p>会議経過要旨</p>	
<p>1. 開会</p> <p>・本日の会議は公開とすること等の了承を得た。</p> <p>2. 竹本部長挨拶</p> <p>これまで子どもたちにとってより良い教育環境となるよう様々な角度から、学校の在り方について審議・意見をいただき、パブリックコメント実施にむけた基本計画（案）をまとめる所となった。基本計画（案）の確認と、今後のさらなる発展的なアイデアに向けた時間となるよう、積極的な意見交換をお願いしたい。</p> <p>3. 議事</p> <p>主な意見・質疑等は次のとおり。</p> <p>会議録署名委員について、名簿順により坂寄委員を指名した。</p> <p>(1) 協議事項</p> <p>・基本計画（案）について</p> <p>会議結果要旨のとおり。</p> <p>委員：14ページ 通学距離・方法の所で小学校と中学校という区分になっているが、今後、計</p>	

画（案）にあるような小中一貫教育を目指すのであれば、小学生・中学生の方が分かりやすいのではないかな。

事務局：小中一貫教育もひとつの考え方として示しているものである為、原案のままとしたい。

委員長：小学校段階・中学校段階といった表現も考えられるので、事務局で再検討を願う。

委員：22ページ下から5行目の段落で、「及び」への文言変更や「集団規模を確保することにより」といった追記をし、具体的に分校という表現も入れた方がわかりやすいのでは。

事務局：「小学校段階・中学校段階及び全体として」に修正する。

分校については、これからの検討課題であり、形態として低学年は地域の学校へという意味であるため原案のままとしたい。

また「集団規模の確保及び教育の質の」を「集団規模を確保することにより教育の質の」と変更することについては、集団規模の確保と教育の質の維持・向上は、それぞれの独立した意味で示しているので原案のままとしたい。

委員：38ページ 協議の流れ（イメージ）に、保護者・地域の代表（PTA役員など）となっているが、PTA役員と併せて地域の代表というのも明記してはどうか。

委員長：地域で様々な立場の方がおられるので、PTA役員という狭い表記でない方がいいのではないかな。

事務局：検討する。

委員：15ページ下から2行目 障がいのある児童生徒という表現について、障がいは個性とも思われるのでやわらげる優しい表現はできないかな。

委員：同じ成果の箇所、特別な支援を必要とする児童生徒という書き方もしているので整合のとれるようにしてはどうか。

事務局：16ページの注釈部分の表現は文部科学省の定義等を参考にしている。全体的に整合がとれる表現を検討したい。

委員長：15ページの表記はそのままに注釈を加えるなど、事務局で検討してほしい。

委員：7ページにも注釈があるが、文中で使われている箇所と近い所に掲載した方が分かりやすい。

事務局：レイアウトを修正する。

委員：38ページ 協議の流れ（イメージ）の対象について、誰が関わるのかは重要である。ここで示されているの内容で決定なのか。例えば中学校区毎の検討において子どもたちの気持ちも入った方がいいと考える。

事務局：具体的な対象も含め詳細はこれからである。固定化する意味合いではないので、再編計画の段階で対象者も含め再提示することになる。

委員長：内容例と同じように全体にかかるように「等」を入れては。

事務局：修正する。

委員長：子どもの学校参加は注目されている。熊本市では校則の見直しを子どもたちが中心でやっている例もあるので、限定しないで様々な方の声を聞くようなイメージを膨らますことができると考える。

委員：39ページで計画の見直しについて触れているが、見直しの時期はどうなっているのかな。

事務局：計画の見直しについては文中のとおりであり、具体的な年数はない。

委員：仮に学校統廃合があった場合、学び以外の施設としての役割があるが、統廃合以降の事については何か考えはあるのか。

事務局：19ページで地域社会との連携について明記している。本計画は、子どもを中心とした計画であり、拠点の議論は別の考えになってくる。後の検討課題という認識である。

委員長：事務局預かりの分は検討いただき、パブコメ前の計画として、異議なしの声も頂いたので決定する。

4. その他

- ① 次回の日程について
会議結果要旨のとおり。

その他特記事項	傍聴者7人
---------	-------